

### 学生のベスト・コメント

[回答 25]「刺激」を「労働」と考えた時に、報酬と捉えるか罰と捉えるか。もし労働が生活のほとんどを占めている場合、幸福感が増すのはどちらか、と考えると、その人にとっての報酬が金なのか働くこと自身なのか、つまり、個人の労働の目的が幸福感にも影響してくるのでしょうか？

[回答 21]幸福感と経済学はあまり関連づけられないと思っていましたが、意外と脳科学などと通じて関わっているのだと思いました。幸福感と経済学で取り上げられるのはブータンの GNH ですが、私はどちらかというとお金持ちになりたいので、当てはまらないと思いました。なぜ、先進国である日本やアメリカは欧米と違い、金銭的報酬は幸福感と繋がりにくいのでしょうか。

### 講師からのコメント

労働は、人生の時間の多くを費やしているものですので、労働から幸福感を得られているか否かは、人生の幸福を大きく左右します。金銭的報酬は労働意欲に影響を与えますが、実際には金銭的報酬を高めることによって、労働生産性を上げることができるかについては多くの議論があります。成果主義に基づく賃金制度の導入によって生産性が上昇したという実証結果は、あまり得られておりません。むしろ、チームワークの形成にマイナスの効果があれば、チーム全体での生産性は減少することになります。また、労働意欲の変化は、賃金上昇に対しては敏感であるが、水準に対してはあまり敏感では無いという考えもあります。高水準の賃金を得ている労働者が、減俸されると、労働意欲を減少させることを考えると理解できます。

今回お示した実証分析の結果では、多くの国々で、職場環境、仕事の裁量、能力形成といった点が、正規労働者にとって重要であることが示されております。金銭的報酬という要素は、労働意欲を形成する一部でしか無く、労働者の処遇と労働環境の整備は、あくまでも職場内における信頼形成と労働意欲の付与を重視していく必要があると考えます。このことが、結果的に日本企業の競争力向上に繋がっていくと判断します。

以上